

新宮山彦ぐるーぶ第2327回

釈迦ヶ岳・釈迦如来像建立100年祝賀登山

◇実施日 10月13日(日) 快晴

◇参加者

新宮； 沖崎吉信、湯川一郎、阪口雄二、濱野兼吉、畑林秀味・清子、

大江加予・徳子、橋本タカユキ

三重； 杉山忠英、山川自知、杉本和己、上村和美

中前G； 中前晨太郎、内野井慎搾・里美、山本亜木、大志野康子、赤

松容子

瀧本G； 瀧本昭太郎、安田知美、立野栄弓、大橋澄子

奈良大阪； 梶野照雄、志岐敬、山本直子、山口泰宏、由井洋三、榊

本真仁、村吉光夫

その他； 井筒良太郎(貝塚市ネットで申し込み)

31名

大正13年(1924年)の7月、釈迦ヶ岳山頂に立派な釈迦如来立像が建立された。

水嶋富三郎、中島一乗氏を發起人とした「大阪佛立会、明德講」によって寄進。建立されたものだ。この高さ3mを越す銅像を山頂まで運び上げたのは岡田雅行(鬼マサ)で、大日岳の大日如来坐像、椽の鼻の蔵王権現像の2体を合わせた3体を独力でそれぞれの建立場所まで運搬した。3体の運搬時間はおよそ3か月であった。

釈迦如来立像は平成19年の解体修理、令和元年の土台石積の修復、令和2年から3年にかけての輪光の修理などに携わったご縁も

あり、各団体に建立100年を祝う動きがないことから、せめて我々のぐるーぶだけでも、その100年のご慰労と感謝の気持ちを込めた行事開催の必要を感じ、企画・実施した。



登山口の横断幕



標識を更新



千丈平に着く

当初は9月1日に40名の参加で実施予定だったが、台風10号の接近でやむなく延期し、10月13日の開催となった。

行仙宿での2回の慰霊にご参加いただいた杉山忠英行者に導師をお願いしたところ、快くお引き受けいただいた。また、菓子や果物、供花などは大江、畑林さんがすべて準備してくださいました。

小仲坊の五鬼助さんにも建立100年を祝う登山に付いて相談したが「私が主になって行かねばならないが、体が弱って山頂まで登ることができないので、山彦さんで実施していただくことは大変ありがたい。よろしく頼みます」とのことだった。

前日の電話に出た奥様の話では、13日の朝から山頂に向かうが、11時半までに到着しなくても先に始めてください。頑張ります！

と話された。



山頂で勤行

線香を手向ける

今西流の万歳

計画時点では午前8時ごろに登山口に集まり、全員で山頂を目指すとしていたが、足の速いものと遅いもので一時間くらいの差が出てしまう。そこで山頂を集合場所とし、午前11時30分に集まって頂くことにした。その結果、新宮を早朝4時30分に出発する組と5時30分に出発する組に分かれた。また五條市のホテルで前泊された人もいた。参加者は31名となり最長老の橋本梓さん(89歳)も大変楽しみにされていたが、直前に体調を崩され欠席。ご息参加された。中前君の関係からもご長男と内野井君ご夫妻、他女性3名のご参加も頂いた。

当日、道の駅十津川郷で新宮後発組、三重県組、中前Gの皆さんが集まり、登山口に向かった。午前7時半過ぎに登山口に到着したが、3連休の中日で好天に恵まれ登山者もかなり多い。中間登山口で梶野君と出会い登山口の駐車場は一杯だと聞いていたのでかな

り下の方に停める覚悟だったが、トイレの少し下方に駐車できた。先着していた村吉さんはいつもの慶事に大きな横断幕を作ってくさるが、今回も2枚作製、一枚は登山口もう一枚を山頂用に作ってくださった。また、不動木屋谷登山道の合流部の標識を取り換える、と標識3枚と杭など、重そうな荷物で登っていったようだ。

今日は梶野、榊本の2名が中間登山道を。瀧本Gの4人は旧登山口から不動木屋谷登山道を登った。瀧本さんによると、登山道には間伐材が多数残されているので、間伐が終わるまでは利用しない方がよいそうだ。

午前8時前に登山口を出る。旧道の分岐でいつも休憩するのだが、かつては30分ほどで着いたのだが、今では40分を越えるようになってしまった。旧道の分岐に着くと、村吉さんの標識取替作業は終わっていた。いつもとはちよつと趣が違うが、よく目立つ立派な物だ。これで10年以上交換の必要が無くなった。

次の休憩ポイント「古田の森」を目指すが、先日行仙宿補給路で背負子にセメントを乗せて運搬中に転倒し、痛めた膝が治りきっておらず、歩行が不安定な状態で、2度転倒した。情けないやら恥ずかしいやら。2回目の転倒では顎を強打して、今でもその跡が残っている。

2時間半近くを要して千丈平に着く。10分ほど休んで山頂への急登に入る。少し登ったところでメンバーの4人ほどが降りてきた。供物、供台、横断幕など分散して担いでいたので山頂の用意ができず、荷物を取りに来たという。そのうちの一人、ホームページを見て初参加された貝塚市の井筒良太郎君から「深仙宿で前泊したところ、五鬼助さんの奥さんが深仙宿迄登ってこられました。足の調

子が悪く、山頂には向かわず深仙宿から引き返されました。皆さんによるしくお伝えくださいとのこと。これを言付かつてきました」と報告がありご厚志を頂いた。

ゆつくりではあるが奥駈道の三差路に着いた。梶野君と湯川君が標識の交換を行っていた。さらに歩みを進め、午前11時5分、やっと山頂に着いた。3時間10分も掛かってしまった。釈迦如来像足元の石積には横断幕、その前に供台が置かれ、お供えや花もきれいに並べられて、いつ始めてもいよいよに準備されていた。先着の皆さんありがとう。

全員の到着を確認、五鬼助さんの娘婿という男性も前鬼から登ってこられ、ご挨拶させていただいた。



本日の参加者

標識を交換

パイプを差し直す

午前11時半少し前だが式典を始めた。杉山行者に大峯75摩勤行次第により懺悔文、開経偈、般若心経、御真言と続き、本覚讃で締めさせていただいた。そのあと全員に線香を一本ずつ配ってご焼香を

行った。これで仏事を終え、沖崎より釈迦如来像の事、鬼マサの事などをお話しし、祝賀行事を終えた。集合写真を撮って今西流の万歳で本日の予定を終了した。

登山者が多いので山頂で食事する場所が無いかと思っていたが、式典を行っている間、遠慮して下山した人もいたよう。山頂に人は少なく、座って昼食を摂る。数人は千丈平まで降りて昼食を摂ったようだ。昼食後は山頂で解散し各々が自分のペースで下山した。



釈迦ヶ岳

弥山、八経ヶ岳

大目岳

今年の懸案事項も皆さんのご協力で、一つ無事にクリアできた。行き帰りの登山道においても、道標の取り換え、かくし水のパイプ調整や奥駈三差路の標識整備など、常に目を配って問題を解決してくれる。大変感謝したい。

帰宅してからも、古田の森付近の笹を刈る必要がある、かくし水の案内板が破損している、などの声があり今度は作業が必要になってきた。

釈迦ヶ岳は山容の美しさ、山頂からの大展望、太尾登山道の歩きやすさなどで、大峰南部随一の人気の山である。山頂に立つ釈迦如来像は大峰一番のシンボルであろう。今までの100年とこれからの100年間は、今まで以上に厳しい試練があるだろう。我々弱小ぐるーぷにできることは限られるが、いつまでも、いつまでも釈迦如来像を見守って行こうではないか。 (記：沖崎)

行動タイム

07：35 太尾登山口↓不動木屋谷登山道分岐 08：40→10：：30 千丈平↓11：05 釈迦ヶ岳 12：25→14：40 太尾登山口